

中医研究科・通信教育コース 開講しました



2015年9月、本学院では新たに研究科の通信教育コースを開講いたしました。本学院では、卒業後も中医薬膳学を学習する機会として研究科(通学コース)を開設しておりますが、以前より多くの卒業生の方々から中医学をもっと深く学習したいけど、遠方から東京まで通いきれない、また仕事等諸事情でなかなか継続して通学出来ないといった声を伺っておりました。通学の手間や時間の都合などを考えずご自分のペースで学習できるようにと、この度の新コース開講となりました。

学習中の疑問はメールや文書で講師の先生方に聞くことも出来ます。また、将来的に国際中医師の資格取得を検討されていらっしゃる方にも是非お勧めです。ご興味がおありの方は学院までお問い合わせください。



中医研究科の教科書
(中医臨床基礎科・中医内科学)

研究科(通信)コース一覧

【2015年9月時点】

科目	内容
中医臨床基礎科	中医体質学・経絡学説・六経弁証・温病学説(衛気営血弁証・三焦弁証)
中医内科学	肺系病証・心系病証・脾系病証・肝系病証腎系病証・気血津液病証・肢体経絡病証

<現在準備中>

中医婦人科学・中医小児科学・中医外科学・方剂学

2015年 夏期スクーリング開催

2015年7月24日(金)~26日(日) 開催

場所:本草薬膳学院 教室



スクーリングを終えて

中医薬膳師通信コース 太田 奈葉江

さまざまな不安を抱えて、準備不十分のまま臨んでしまった3日間のスクーリングでしたが、始めてみれば全てが新鮮であったという間でした。

一人で勉強していた時は、中医学独特の同じ意味なのに何通りも表現がある事を、ひとつに絞ってくれたら楽なのになぜ?と、とても疑問に思っていました。先生のお話で、中医学は文学や歴史、哲学と密接に関わりがあり、様々な表現を用いることが教養の現れであると学び、私もいつか深く中医学を理解し、豊かな言葉で表現できるようになりたいと前向きに考えられるようになりました。中医学や薬膳を学ぶことはもちろん、そこから広がる世界を知ることも新たな楽しみになりそうです。

3日間、辰巳先生をはじめ、先生方はいつも穏やかで明るく、興味深い講義や実習をしてくださり、そして個々の話にも優しく耳を傾けてくださいました。そんな理想的な先生方から学べたことをとても幸運に思います。先生も、「通信教育は孤独との戦い」と話してくださいましたが、私も今まで一人で勉強していて、つまづく事が多く苦労していました。それが自分だけではないと知ることが出来た事、そして励まし合える楽しい仲間と出会えたことも大きな収穫でした。

これから生涯をかけて、奥深く中医学、薬膳を学び、いつかそれを自分自身だけでなく周囲の人々の健康に役立てることが出来たらと願っています。

有意義な3日間をどうもありがとうございました。



学ぶということ

中医薬膳師通信教育コース 木戸 りんな

私は薬膳を学ぶ前からただ料理を作るのが大好きでした。勿論食べる事も大好きで、外食の際には味付けは何でされていて、どのような具材が使われているのだろういつも想像を膨らますほどでした。

そんな私が今からは八年前に当時の仕事や環境のストレスから大きく体調を崩し、終いには食べられなくなり、毎日点滴に通う生活が続いたのです。体重はみるみる減り、長身の私が三十五キロしか無いという辛さを味わいました。口にする物する物に、今思えば身体が正直に反応していました。それは拒否でした。

何を食べて良いのかわからなくなった時、雑誌の片隅に薬膳という言葉を見つけ、その人その人に合った食事の取り方、考え方があるのだと目から鱗でした。そこから薬膳師への道道を志しましたが、毎日机の上での勉強が大半を占める通信での勉強は心折れる時もありました。ですが今回のスクーリングに参加してみて光が差したように感じる事が出来ました。

分かりやすい講義や丁寧に説明を受ける事の出来る実習、意見の交換は非常に重要でした。自宅で勉強し自分なりに納得する事も勿論大切だと思います。ですが自分の知識として物に出来るまでにするには相当の理解力が必要となってきます。今回の三日間でやってきた勉強を復習出来た事、更に多くを学んでいると何より実感出来た事。感謝申し上げます。

薬膳の道は終わり無く日々学びであると教えて頂きました。精進し中医薬膳師を目指します。



今年の夏季スクーリングは27名もの通信生が全国から参加されました。



2015年度 国際薬膳師(士)・国際薬膳調理師 資格認定試験合格者の声

2015年6月、中国から本年度の国際薬膳師(士)・国際薬膳調理師の資格認定証が届きました。

(【合格者】国際薬膳師：41名、国際薬膳士2名、国際薬膳調理師9名)



この度、二〇一五年度国際薬膳師の試験に無事合格することが出来ました。飯田先生、平尾先生、劉先生(五十音順)の御指導のお蔭です。中医学に関して無知でした私に、学び知る事の喜びの機会を与えて下さったことに深く感謝しております。

私は入学する一週間前まで「薬膳」という言葉さえ知りませんでした。当時、米国の心理研究学を卒業したばかりで、科学的根拠を大前提とした学習方法の元で約四年間過ごしておりました。ただし、西洋文化特有のリアクティブな考え方や対処方法に以前から違和感を覚えており、実際に、父に処方される増え続ける薬の数と種類、また不眠症などで薬に依存していく方たちを見てきて、西洋の対症療法が主な治療方法に疑問を抱き続けていました。そこで出会ったのが薬膳の世界でした。

中医学・薬膳の理念の一つでもある「治未病」を知り、あつという間に薬膳の世界に魅了されました。日々のあらゆる症状を考察し、それらにあわせた食薬を配合して疾病を予防・緩和・改善させていく「食養生」の概念にも共鳴し、好奇心を刺激されたことを覚えています。また授業では、難しい中医理論や概念も、デイスカッションを交えて楽しんで学べたため、記憶力の定着にも繋がりました。中医学は基礎範囲だけでも膨大な知識量を求められるため、生徒の要望に応えた授業を行ってくださったことに、とても感謝しております。

現在、研究科に進み基礎から中医理論を勉強中ですが、先輩方が仰る通り、中医学・薬膳は終わりのない学問だと思えます。またそうあるべきで、自然・居住環境の変化等と共に進化すべきもの、なのだとも思います。そういった変容に対応するためにも、孔子が論語で述べているように「学而時習之、不亦説乎。有朋自遠方来、不亦楽乎。…(学而篇)」、今後もより一層勉強に励み、国際薬膳師の皆さまと共に、中医学・薬膳の理論や概念の普及に微力ながら貢献していければと考えています。

21期中医薬膳師平日コース卒業 野本 佳代子

第三期世界中医薬学会联合会「第七回理事会・監事会」並びに
「第一回世界中医薬大会」夏季サミット・「“一带一路”中医薬発展国際シンポジウム」が
開催されました。 2015,6,12~15 中国・揚州市

2015年6月12日から15日にかけて、中国・揚州市において、第三期「世界中医薬学会联合会」第七回理事会及び監事会が開催され、常務理事を務める本学院の辰巳洋学院長が出席されました。

理事会・監事会では、中国・アメリカ・イギリス・カナダ・スペイン・オーストラリア・ニュージーランド・オランダ・オーストリア・ロシア・シンガポール・ブラジルなどの国と地域から副会長・常務理事・理事など約50名が出席しました。

余静主席が開催の祝辞を述べた後、各部から「世界中医薬学会联合会における中医薬の“一带一路”国際標準化発展計画」「“一带一路”中医薬発展計画のために積極的に国際的な相互情報交換を遂行」「中医臨床研究論文撰編纂の基本要求」「中医学用語の国際基準の制定」「世界中医薬学会とWHOの協同作業関係の報告」など多くの議題をテーマに、副主席・秘書長である李振吉氏が理事会の組織や活動内容についての報告を行いました。

その後、出席した各理事から各国の中医薬の発展現状についての報告があり、また事務局に対して意見・提案を述べ、世界中医薬学会联合会は中国政府が提唱する“一带一路”政策に積極的に参加することを話し合いました。



第三期世界中医薬学会联合会第七回理事会

右)辰巳洋学院長と恩師・世界中医薬学会联合会副主席・秘書長の李振吉教授



また同期間内に「第一回世界中医薬大会夏季サミット」「“一带一路”中医薬発展国際シンポジウム」も開催され、大会に臨む1000余人の代表が参加しました。中国科学技術部元部長の徐冠華先生、中国工程院の石学敏院士、南京中医薬大学の陳滌平書記らが大会に参加し、祝辞を述べました。

世界中医薬学会联合会は12年間の努力により、65の国と地域から239の国際団体が参加し、74の専門委員会が成立されました。今年WHOはこの会を非政府組織構成員として許可し、国連科学教育文化部門非物質文化遺産相談機構、国際標準化組織中医技術委員会A級連絡組織など国際組織として承認され、国際舞台でますます重要な役割を果たすための国際組織として発展してきました。

特別講座レポート

「山岡洋先生の薬膳中国料理講座」

【第1回目】2015年7月27日(月) 10:00~13:00 実施



毎回本格的な中華料理が勉強出来る山岡先生の薬膳中国料理の公開講座。今回のメニューは以下の3品でした。

- ・鼓椒苦瓜鶏球(苦瓜と鶏肉の黒豆味噌炒め)
- ・荔香椰皇露(タロ芋ココナッツ汁粉)
- ・冷拌担々麺(冷やし担々麺)

山岡先生の調理デモンストレーションが行なわれた時、受講生は間近で先生の包丁捌きを見学し、写真を撮ったり、熱心に質問されてたりしておりました。

その後の調理実習では、受講生全員で協力し料理3品を見事に仕上げました。



鼓椒苦瓜鶏球
(苦瓜と鶏肉の黒豆味噌炒め)



荔香椰皇露
(タロ芋ココナッツ汁粉)



冷拌担々麺(冷やし担々麺)

第4回目(2015年10月19日(月)開講予定)以降の受講お申し込み、まだ受付しております。
是非、お誘いあわせの上ご参加ください!



本草薬膳学院 教員室 第 8 回

渡辺 真里子先生

本学院通信教育コース卒業 国際中医師
中医薬膳師大阪教室 学科/実習担当

大阪教室で中医薬膳師コースの理論と実習を担当させていただいております。

この春に開校した大阪教室は、元気で熱心な 10 名の学生のみなさんと献身的にサポートくださる実習アシスタントの福田和愛さんに支えられ、無事に半年がたちました。

私自身は、薬膳そして中医学の世界にはまり込んで 8 年がたとうとしています。その中で、機械などに頼らず自らの五感を使うことが中医学の智慧を活かし実践することに直結しているところは大きな魅力のひとつに感じています。

例えば、四診はまさしく五感をフルに使った診断方法ですし、その知識を日々の生活の中で活用すれば体調の変化の兆しをキャッチすることができます。五味をバランスよく味わうことは心身のバランスを整えることにもつながります。五感で自然の光や風、温度やにおいなどの微妙な変化を感じることは季節の変化の兆しをとらえることにつながり、自然界と上手に調和しながら生きていくためのヒントになります。そしてそれは日々の生活の豊かさにもつながるように思います。

今後もさらに五感を磨きながら薬膳の使い手として少しでも上達できるよう、また授業を通じてより楽しく薬膳や中医学の魅力をお伝えできるよう、精進していきたいと思っております。



2015 年度 秋期学生募集中!

◆ **中医薬膳師・家庭薬膳 (通学) コース**
・第 24 期 土日コース [第 3 土日曜日]
(2015 年 10 月 17 日(土)開講予定)

◆ **中医薬膳師 (通信) コース**
随時入学受け付けております。

◆ **研究科 (通信) コース**
・中医臨床基礎科 ・中医内科学
随時入学受け付けております。

是非、お知り合いの方をご紹介ください!

※ご紹介頂いた方がご入学(通学コースのみ)されました場合、些小ながら謝礼をさせていただきます。



新刊ご紹介

研究科教科書 (本草薬膳学院発行)

『中医臨床基礎学』 2,000 円(税込)

『中医内科学(全三巻)』 各 2,500 円(税込)

事務所窓口にて販売開始しました。

【注意】本学院在校生、卒業生のみへの販売となります。



【お詫びとお知らせ】

前号(48 号)にて、資格認定試験の記事にてロート製薬(株)からの受験生を誤って「5 名」と記載してしまいました。正しくは「6 名」となります。ここに訂正してお詫び申し上げます。



- ◆ 「本草つうしん」は HP(ホームページ)内にて創刊号～最新号(49 号)までカラー版をダウンロード出来ます。
- ◆ HP、ブログ等を持っている方で、本草薬膳学院の HP にリンクを貼りたい方は学院までご連絡ください。(但し、HP やブログの内容によってはリンク出来ない場合がありますので予めご了承下さい。)

本草薬膳学院 HP <http://www.honzou.jp/>